



## 教師教育コンポーネント活動状況 (2020年11月)

### 4年生新カリキュラム導入研修

#### 〈中央研修〉

CREATEでは、新カリキュラム導入前に、全国すべての小学校の先生が新カリキュラムの特徴や教え方を学ぶ研修を支援しています。これまで実施された1～3年生の導入研修に続き、2020年1月～2月にかけて、4年生の新カリキュラム導入研修が中央レベルで実施されました。

中央研修では、州/管区以下の研修で研修指導者となる予定の小学校教員や校長約250名（18州管区より各4名（都市部では6～8名））が、教育学やアセスメント等を学ぶ共通セッションと、教科別のセッションに参加しました。

今回の研修では、これまで実施されてきた1～3年生の研修で得た教訓を活かし、参加者が自分の学んだことを振り返り、それを文書化する時間や、説明を読む前に自分のアイデアをまとめる時間等が設けられました。また、講師からの説明は最低限にとどめ、新カリキュラムの授業ビデオを使った子どもの学びの観察やそれに基づく意見交換、また、実際に児童が参加する授業実習とその省察等、より活動の時間が多く構成になるよう準備されました。

参加者が非常に熱心に活動を行ったため、また楽器練習など実践を伴う活動に想定以上の時間がかかったための時間の不足といった課題も見られたものの、全体的に中央研修はスムーズに実施され、参加者も非常に熱心に参加している様子が見られました。前回までの研修には、EC（教員養成大学）の教官が参加していたのですが、今回の参加者から校長と小学校教員に変更されたため、小学校児童の実態や現場の状況に即した議論が活発に行われました。また、多くの参加者にとって、他地域の教員と交流するこのような機会は初めてであり、議論や様々な活動を通して、参加者間の同僚性が育まれたことは大きな収穫でした。

研修教材や研修で使用したビデオクリップは「ミャンマー新初等カリキュラムウェブサイト」

（<https://createmm.org/en/download>）のダウンロードページ左側の「New Curriculum Introduction Training Materials」タブからもご覧いただけます。



音楽で笛を練習している様子



活発な意見交換が行われました

## <州/管区以下の研修>

これまでの導入研修は中央→州/管区→ディストリクト→タウンシップと、カスケードで実施されましたが、4年生の導入研修では、新型コロナウイルスの影響で、中央レベル研修の後の研修が一旦延期となりました。方向性が見えないまま時間が過ぎ、5月になってようやくオンライン研修と短縮版の対面研修の実施が決定され、最終的に以下のスケジュールで全教員への研修が実施されました。

- 5月21日：オンライン教材によるトレーナーの自習開始
- 6月5日：オンライントレーナー研修の開始
- 6月12～13日：ライブ配信によるトレーナー研修
- 6月15日～20日：全教員を対象とした、各タウンシップでの対面研修

オンライン研修中には、教育省が用意したオンラインプラットフォーム（MDEP: Myanmar Digital Education Platform）や、その上に設けられた DBE Box サイトに、プロジェクトにて開発した教科書および指導書、1月から2月にプロジェクトが協力して実施した中央研修の映像やプロジェクトが制作した授業映像、コロナ禍を受けて構成しなおした短縮版の研修モジュールが掲載されました。

トレーナー研修の実施主体は教育省ですが、ライブ配信はプロジェクトオフィスから行われ、プロジェクトでも配信に係る支援や、プロジェクトのウェブサイトや Facebook を活用して教材配布に係る支援を行いました。準備期間が非常に短かったため、いくつかの会場で機器のトラブルや接続の問題で参加者が研修の一部に参加できなかった等のトラブルもあったものの、研修は無事実施されました。プロジェクトでは、リアルタイムで映像が見られなかったタウンシップには、音声と映像を提供できるよう、教育省側に助言・支援を行いました。

6日間に短縮して行われたタウンシップでの対面研修も、極めて短い準備期間であったものの何とか実施され、その様子は現地のメディアでも連日報道されました。プロジェクトのカウンターパートが対面研修のモニタリングを行ったところ、機器や教材関係のトラブルや、短期間かつオンラインで実施されたトレーナー研修によるトレーナーの準備不足、研修期間の短縮に伴った実践的な活動（模擬授業等）の削減などの課題が見受けられたものの、慣れない状況の中、トレーナーや研修を受講した先生方が一生懸命参加していたということが報告されました。

誰にとっても初めての経験の中、感染対策を講じながら全国研修を実現させた教育省と学校関係者、プロジェクトのカウンターパートとスタッフには頭が下がる思いです。



現在プロジェクトでは、5年生の新カリキュラム導入研修に向けて準備を進めています。日本人の専門家がミャンマーに渡航できないため、例年とは異なり遠隔でビデオや教材の作成を行っていますが、それは決して容易ではなく、また、現在もミャンマーでは感染拡大が続いており、対面での研修実施が出来るかどうか、不確定要素も大きい状況です。それでも、カウンターパートや現地スタッフ、日本人専門家は、ミャンマーの先生たちに研修が届けられるよう、力を合わせ、出来る限りの準備を進めています。先生を支えることは子どもの学びを支えることに直結します。先が見えない状況ではありますが、引き続きプロジェクトでできることを精一杯行っています。

文責： 宮原光、大津璃紗（プロジェクトコーディネーター）株式会社パデコ